

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ティーンズ本八幡		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 1日 ~ 令和7年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	85名	(回答者数) 38名
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 1日 ~ 令和7年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「安心・安全」な居場所としての高い信頼性	トラブル発生時の迅速な報告や、日々の電話・メールによるこまめな情報共有により、保護者が安心して預けられる環境を構築しています。	今後も緊急時対応や防犯マニュアル等の周知を徹底し、安全管理体制の透明性を維持し続けることで、より強固な信頼関係を築きます。
2	本人の意欲を引き出すプログラムと関係性	「子どもが通所を楽しみにしている」という評価が非常に高く、スタッフとの良好な関係性が子どもの息抜きや楽しみの場として機能しています。	「お仕事体験」など他者と関わる機会を維持しつつ、本人がより自信を持てるような成功体験を積めるイベント(外出企画など)を検討し、社会性の向上を支援します。
3	情報発信の頻度と個別支援計画への納得感	最新情報の発信や自己評価結果の開示(はい 97.4%)を定期的に行っており、支援計画の作成過程においても本人の希望を汲み取る姿勢が感謝されています。	現在の高い情報発信力をベースに、進路支援(受験作文や就職活動準備)など、将来のライフステージを見据えた具体的なステップアップ情報の提供をさらに充実させます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援および専門的プログラムの深化不足	「1対1だともっと嬉しい」や「SSTで個別に支援を受けられる時間があると有り難い」といった声があり、現在の集団または現状の個別対応以上の、より濃密で専門的な支援への期待が高いことが考えられます。	個別支援計画に基づき、SSTなどの専門プログラムにおいて、より個々の特性や習熟度に合わせたスモールステップの設定や、個別対応時間の検討が必要です。
2	学校等関係機関との情報共有の希薄さ	「学校での様子はあまり共有する機会がない」との意見があり、家庭・事業所間だけでなく、教育現場との三者連携において情報が不足している現状があります。	定期的な学校訪問や関係者会議への積極的な参加、または連絡帳やメール等を活用し、学校生活の様子を保護者にフィードバックする頻度と内容を強化します。
3	サービス内容の周知不足と保護者の不安への対応	「どのような支援をどこまでお願いできるのか、まだあまりつかめていない」という認知の乖離や、専門的な提示(最適解)が親の希望と異なる際に相談しにくさを感じる心理的障壁が存在します。	サービスの全体像や活用方法を再周知するとともに、専門的な助言を行う際は保護者の不安に寄り添う「傾聴」を重視し、共通の目標を再構築する機会を設けます。